

実際に行って感じた中国に対するイメージ変化

今回、私は社会学部の「海外フィールドワーク」という中国・広州での10日間短期留学プログラムに参加しました。10日間を通じて、現地の大学での講義、文化体験、企業訪問、観光など、さまざまな活動を体験し、日本で過ごしているだけでは得られない中国社会や文化について多くのことを学ぶことができました。プログラムは歓迎式から始まり、中国事情や嶺南文化の講義、書道や切り絵、太極拳などの文化体験、中日合資の東風日産や地元の電子製品会社 AuOne の見学、広州市内の観光やテーマパーク訪問など多岐にわたり、最後には修了式が行われました。

私がこのプログラムに参加した目的は、異文化に直接触れ、自分の視野を広げることでした。昔から海外に行ってみたいという思いがあり、大学が費用の一部を負担してくれることを知ったときに、「1 回生の夏に海外に行くなら、この機会しかない」と考えました。現地の人々と交流し、その国の文化や生活を肌で感じることで、日本にいただけでは得られない価値観や考え方に出会えるのではないかという期待もありました。

実際に現地で生活してみると、私の中国に対するイメージは大きく変化しました。渡航前は「街が汚く、模倣品が多く、日本よりも発展が遅れている国」という固定観念を持っていました。しかし、都市部は清潔で近代的な施設も多く、むしろ日本より進んでいると感じる部分もありました。特に印象的だったのはキャッシュレス決済の徹底です。商店や屋台でも QR コードが設置され、現金を使う機会はほとんどありませんでした。かつて偽札が横行したことによる現金への信頼低下が背景にあり、Alipay や WeChat Pay などのモバイル決済が急速に普及したことを学びました。また、公共交通機関の安さや利便性にも驚きでした。地下鉄に十駅以上乗っても 100 円未満、タクシーもアプリで簡単に呼べ、非常に安価に利用できました。調べてみると、中国政府が公共交通に多額の補助金を投じていることが理由で、国の政策が国民生活に与える影響の大きさを実感しました。さらに、街を走る車の多くは電気自動車であり、環境への取り組みや新技術の導入スピードの早さも印象に残りました。一方で、車線変更の際に譲り合いが少ないなど、交通マナーの違いに危険を感じる場面もありました。

日常生活では中日の「水」に関する違いも印象的でした。中国では水道水をそのまま飲むことはできませんが、街の至るところに給水所が設置され、スーパーやコンビニでも安価にペットボトルの水を購入できます。日本では蛇口の水をそのまま飲める環境が当たり前ですが、現地の生活を通じて、そうした日常の恵まれた環境のありがたさを実感しました。また、広州の街には巨大なショッピングモールが至る所にあり、買い物・飲食・娯楽が一体化している点も印象的でした。大学の正門前や学生寮前などにはデリバリー商品が山積みになっており、出前文化が日常に根付いていることも新鮮に感じました。中国の大学生はほとんどが学内の寮に住み、キャンパス内には食堂や売店、病院まで揃っていて、一つの町のよ

うでした。日本の学生のようにアルバイトで生活費を稼ぐのではなく、親からの仕送りで生活している場合が多いことも興味深い発見でした。

さらに、今回の滞在で学んだのは広州の地理的・歴史的な特徴です。広州は香港やマカオなど、かつて植民地支配を受けた地域に近く、古くから国際的な貿易や経済活動の中心地として発展してきました。そのため、街並みには西洋建築の影響が見られ、国際色豊かな雰囲気が漂っていました。また、現地の生活習慣として印象的だったのは、お酒やタバコの購入・利用が18歳から可能であり、年齢確認が徹底されていることです。社会制度の違いに触れることで、文化だけでなく制度面でも学びがありました。

生活や文化のなかで興味深かったのは、建物や校則に表れる違いです。中国は地震が少ないため、昔ながらの建物が多く残っており、歴史的な建築様式が街の風景に自然に溶け込んでいました。日本では耐震基準の問題から古い建物が取り壊されることも多いですが、広州では歴史の厚みを感じることができました。また、現地の学生との交流で知ったのは、高校の校則で「恋愛禁止」が明記されている学校が多いことです。勉学を第一に考える中国の教育文化を象徴する事例であり、社会全体の価値観や教育方針の違いを実感するきっかけになりました。

街を歩く中で日本文化の影響力の大きさも感じました。ドラえもんやクレヨンしんちゃん、ちいかわといった日本のキャラクター商品が至る所で目に入り、日本以上に日本文化を感じる瞬間もありました。また、食べ物は全体的に安価で、数百円でお腹いっぱいになることも多く、食文化の豊かさや庶民的な暮らしやすさを実感しました。夜遅くまで営業している店舗も多く、都市の活気を肌で感じることもできました。

現地学生との交流も貴重な学びでした。言葉の壁はありましたが、翻訳アプリやジェスチャーを駆使すれば意思疎通は可能で、互いに気持ちを伝えることができました。この経験を通じて、「異なる言語や文化を持っていても理解し合える」という自信を得ることができました。

この留学を通じて、私は固定観念を打ち破り、中国に対するイメージを大きく変えることができました。10日間で得られた経験や気づきは、これからの人生における大きな財産であり、今後はこの学びを活かして、どんな場面でも柔軟に対応できる人間に成長していきたいと感じています。

(参加者：佐伯飛翔さんより)